



第5戦

SUZUKA GT 300km RACE

鈴鹿サーキット

決勝

8月23日(日)

天候：晴れ コース状況：ドライ



決勝：20位

鈴鹿は朝から雲は多いものの晴天となり、午前中から気温がグンと上昇。9時の時点で30℃を超えた。決勝前、12時ちょうどに始まった20分間のウォームアップ走行は、ト部から堤に交代して車両のセッティングとタイヤのフィーリングを確認したが、タイムは2分0秒643で17位。追い上げが可能なフィーリングを得た。このセッションで1台の車両がトラブルのためピットスタートとなったため、スタートポジションはひとつ繰り上がり23番手となった。

気温34℃、路面温度49℃というコンディションの13時30分にパレードラップが始まり、13時37分、決勝がスタートした。スタートドライバーは今回もト部が担当し、オープニングラップで2台をかわして21位へ順位を上げた。前を走る車両とは1秒ほどの距離があったが、9周目にはこれを詰めて5台ほどのバックに追いつきさらに上位を目指していた。しかしメインストレートで1台の車両に逆転され、抜き返そうとした1コーナーで接触。相手はコースアウトを喫する形となった。

この接触についてはト部の接触行為ということで、ドライブスルーのペナルティが命じられた。20位を走行していたト部はピットロードを通過してペナルティを消化したが、これで順位は28位まで落とすことになった。レース周回数の1/3を経過した15周でト部はピットイン。燃料補給とタイヤ2本交換でピット滞在時間を短縮し、ドライバーは堤に交代して隊列に戻った。早めのピットインを行うチームも多く、17周目には順位を25位まで上げることができた。

堤は2秒ほど前を走る車両との距離を詰め、30周を過ぎると21位争いを展開する3台の1バックとなったが、それらをかわすことはできない状態が続いた。レース終盤になると車両にトラブルを抱える車両があり、38周目には22位、43周目には21位へ順位を上げ、さらに目の前を走る車両の真後ろまで迫ったが、130Rでクラッシュした車両がありFCY(フルコースイエロー)からセーフティカー(SC)導入となった。隊列を組み直してSC先導により、周回を重ねながら再開に向け修復作業が進められたが、レースはSC隊列のままフィニッシュ。20位でノーポイントに終わった。

次のレースは4週間後の9月19～20日、スポーツランドSUGOにおいて300kmレースとして開催される予定。今大会のレースを見直し再びシリーズ争いの先頭への復帰を目指す。





ドライバー 堤 優威

「残念でならないというのが正直な気持ちです。ペナルティがなければ9位ぐらいには行けたかなと思います。自分たちのミスでこういう結果になりましたので、正直チャンピオン争いはもう一度やり直します。交代した時点でポイント獲得は難しい状態でしたが、今まであまりやらなかった二輪交換をして、その状態のバランスやブリヂストンの新しいタイヤのパフォーマンスも確認できましたので、そこはポジティブに考えています。また次のSUGOから頑張ります」

ドライバー ト部 和久

「(接触した相手は)ストレートが速く1コーナーでは少し前に出られて、今思えば自分が引くべきだったと思うのですが引き切れず、無理して自分のポジションを守ろうとして相手の右側とこちらの左側が当たって相手がコースオフしてロスをさせてしまい、ペナルティを受ける形となりました。次は引く強さというか賢さを出せるようにします。ガッツは100点だったのですが結果は0点でしたから、次のSUGOでは100点の結果を残せるようにします」



監督 加藤 寛規

「今日のレースは昨日の予選結果、抜きどころの少ない鈴鹿サーキットということから考えると、苦戦するかなとは思っていました。そしてレース自体はこの高い気温と路温で荒れるだろうなと思いましたが、実際そうになりました。ウチも荒れてしまい自分たちのミスでポイントを取り逃がしました。その部分は次のレースに向けて修正して、まずSUGOでは前の方を走れるようにしたいと思いますし、残り4戦頑張ります」



**HYPER
WATER**

